

巻 頭 言

紀要第 10 巻発刊によせて

平成 20 年 3 月に第 1 巻を発刊した『埼玉医科大学看護学科紀要』も、今年度で第 10 巻の発刊を数えることとなりました。開学からわずか 1 年後には創刊号が発刊されたことから、当時の教員の研究への情熱と自分たちの研究を世に出すことへの意気込みを感じます。

今回は原著がありませんが、多くの方々から投稿があり、10 編の論文を掲載する運びとなりました。この節目の機会に、多くの論文を掲載できることは、編集者として大きな喜びです。言うまでもなく、看護学科教員には、大学として教育、研究、社会貢献のいずれにおいても十分な実践と成果が期待されていると同時に、超高齢社会、或いは少子多死時代における役割も期待されています。私立大学等改革総合支援事業による組織整備や看護学教育におけるコアカリキュラム作成の動きもあり、Work and Life Balance どころではない、というのが現状です。そのような中でも、「少しでも前へ」という強い思いが、この 10 編の論文に込められているように感じます。忙しさに流されながらも、とにかく 1 編の論文を完成させた著者の皆様に、深い敬意を表したいと思います。

また、査読をお願いした皆様には、非常に建設的なご示唆を頂き感謝申し上げます。査読は 2 回が原則ですが、さらなる査読をしてくださった方々もあり、研究に対する熱い思いを感じました。人生初の投稿をされた著者の方々にとっては、査読と修正の繰り返しがいつまで続くのかと、不安に思うこともあったかもしれませんが、査読によって求められた修正を重ねるうちに、どんどん良い論文になっていくのを、編集をしながら感じておりました。査読システムは、する側にとってもされる側にとっても成長の機会となるものですので、厳しくても相互に成長できるような建設的で暖かい姿勢が双方に必要であろうと考えます。このように、いつも教員の皆様が、研究に対して真摯に向き合っていることは、本学科の誇りであると思っています。

最後になりましたが、発刊に際してご尽力いただいた全ての皆様、また本刊にお目を通してくださっている皆様に、心より御礼申し上げます。

平成 29 年 3 月

埼玉医科大学保健医療学部看護学科

学科長 千田 みゆき